

タイタニック

2023. 3. 27

「タイタニック」と言えば、沈没した豪華客船であり、映画のタイトルである。映画は、1997年に公開され、アカデミー賞11部門に輝いた名作である。それが、25周年3Dリマスターとして、2週間限定で公開された。

25年前にも映画館を見た。今回も、これは見なくてはと思い、少しは慣れてきたネットでの座席予約ならびにチケット購入に挑んだ。福島の場合、イオンシネマではやっていない。フォーラムではやっていた。座席を取ろうとしたら、最前列と2列目しか空いていない。何たることだ。

しばし考えた。発想を変えてイオンシネマ米沢とイオンシネマ名取も調べてみた。すでに真ん中の好位置は埋まっていた。だが、やや右側ならば空いていた。これは取るしかない。ということで、名取にあるイオンモールまで出かけることとなった。

いつもの週末よりは早起きをして一路名取へと向かった。余裕をもって到着できた。今回は、ポップコーンも飲み物も買わなかった。「タイタニック」は、ポップコーンをほおぼりながら見る映画ではない。3Dメガネは、「アバター2」のときに購入したものを取っておいたのが正解だった。

ストーリーはわかっている。映画のシーンも、断片的ではあるが覚えている。そのくらい印象に残るすばらしい作品だった。今回はどうなのかとスクリーンに見入った。とても25年前の作品とは思えない。3D映像で美しく蘇っていた。まるで新作のようだった。

自分の記憶にあるシーンと比べながらの鑑賞となった。かといって復習とは違うものだった。また新たに作品を味わうこととなった。この映画には、名シーンがある。レオナルド・ディカプリオ演じるジャックとケイト・ウィンスレット演じるローズが、船首に立って両腕を広げるといふ誰もが知っているあのシーンである。リマスター版のためか、かつてに負けず劣らず美しく生まれ変わっていた。

3時間半の大作だが、ほとんど体を動かすこともなく、ずっとスクリーンにくぎ付けだった。もう満足である。エンディングでは、世界の歌姫セリーヌ・ディオンが歌う主題歌が流れ、それを聞きながら余韻に浸ることができた。

25年前にも思ったことだが、自分にとっての最高の映画作品は、この「タイタニック」である。だからといって、何度も見ようとは思わない。ジブリ作品のように何度も見る映画ではない。見るからには、神経を集中し、何も見逃さない、何も見落とさない覚悟で臨まなければならない。この映画は字幕に限る。吹き替えはよくない。字幕翻訳担当は、やはり戸田奈津子さんだった。戸田さんの翻訳がいい。

「タイタニック」は、名作であり傑作である。私にとっては、これを超える映画作品は、なかなか出ないだろう。帰りの車の中では、主題歌「My Heart Will Go On」が繰り返し流れていた。